

世界 LNG 動向 2022 年 12 月

橋本裕*

はじめに

ドイツが LNG 輸入国となった。2022 年 12 月、同国の FSRU（浮体貯蔵・気化設備）方式の複数の LNG 輸入基地計画中、最初の 2 件、Wilhelmshaven、Lubmin において、それぞれコミショニング用カーゴを受け入れた。

同月には、複数の LNG 生産プロジェクトで引き続き進展が見られた。特に米国の Sempra Infrastructure は、自社 Port Arthur 第 1 段階プロジェクトから、2022 年最後の 40 日間に 4 件の長期 SPAs（売買契約）、合計年間 950 万トン分を、欧州、中国を含む買主との間で締結したことを発表した。

NextDecade Corporation の Rio Grande LNG プロジェクトも、2022 年 12 月に、年間 150 万トン分の追加引き取りのコミットメントを確保した。

2022 年暦年においては、北米 LNG 生産プロジェクトに関して、年間 6400 万トン分の LNG 販売取引（SPAs / HOAs（拘束力あるコミットメントの基本合意））が発表され、年間で発表された総計 7400 万トン分の内、大きな部分を占めた。この 7400 万トン中、中国企業による調達取引が年間 1500 万トン分を占め、欧州の LNG 需要家も年間 1700 万トン分以上を長期取引により調達した。

日本企業も、12 月末に、長期の LNG 引き取りのコミットメントを行った。

北東アジア（日本、韓国、中国、台湾）は、2022 年 11 月、1736 万トンの LNG を輸入したが、前年同月を 6% 下回った。一方、欧州連合・英国合計では、同月に輸入量を前年同月比 70% 以上増加した。北東アジアでは、2022 年 11 月の LNG 平均輸入価格が、100 万 Btu 当たり 18.80 米ドルとなり、2 ヶ月連続で下がった。これは日本・中国の輸入価格が 9 月、10 月の高値から下落したため。

中国の LNG 輸入量は、前年同期を下回っている（11 月分で 5% 減、1-11 月合計で 20% 減）が、同国の輸入量は、2022 年 10 月分 403 万トンと比較すると 11 月分 642 万トンと、遥かに大きくなった。

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ

[アジア太平洋]

株式会社 INPEX は、2022 年 12 月 22 日、南長岡ガス田周辺北部地域（新潟県長岡市）における試掘調査を開始したことを発表した。

株式会社商船三井（MOL）は、2022 年 12 月 21 日、自社が発注し、グループ会社である株式会社フェリーさんふらわあが運航する日本初の LNG 燃料フェリー 2 隻のうち第 1 番船「さんふらわあくれない」が、大分県別府港で、九州電力株式会社から、初めて LNG 燃料の供給を受けたことを発表した。

Samudera Shipping Line Ltd. は、2022 年 12 月 14 日、LNG East-West Shipping Company (Singapore) Pte. Ltd. (LNG EW) 社の普通株式 8,599,702 株を日本郵船株式会社（NYK）から買い取る同月 6 日付の株式譲渡契約を締結したことを発表した。前者は従来からの LNG EW 社株主でもある。Samudera Shipping Line の持分は 25%から 50%に増加する。NYK は残り 50%を所有することとなる。

中国 NDRC（中華人民共和国国家发展和改革委员会）によると、2022 年 11 月の全国天然ガス消費量は 319.5 億 m³、前年同月比 1.5%減となった。1 - 11 月では 3319 億 m³、前年同期比 1.2%減となった。

インド Petronet LNG は、2022 年 12 月 15 日、Gopalpur Ports Ltd（港湾運営会社）との間で、オリッサ州ゴパルプルでの容量年間 400 万トンの浮体式 LNG 受入基地に関する協定を締結した、と述べた。

株式会社商船三井（MOL）とインド GAIL (India) Limited 社は、2022 年 12 月 20 日、MOL 100%出資子会社を通じて、新造 LNG 船 1 隻の定期傭船契約を締結、MOL が GAIL 社向けに傭船している既存 LNG 船 1 隻を両社で共同保有することに合意した。新造船は、2019 年に両社で締結した既存船に続く 2 隻目の契約となる。既存 1 隻について、MOL は 2021 年より自社 100%出資子会社を通じて GAIL に傭船をしている。

豪連邦財務省、気候変動・エネルギー・環境・水資源省は、2022 年 12 月 9 日、高エネルギー価格に対応し、卸ガス市場が合理的な価格・合理的な条件で国内需要家に適切な供給をもたらすことを確保するための政府の計画のガス部分に意見を求めることを発表した。

豪 Woodside は、2022 年 12 月 13 日、豪州の一般家庭への生活費の圧力を下げる政策を支持するが、豪州ガス市場への連邦政府の介入計画はその目的と満たさず、事態を悪化する可能性が高い、と述べた。

豪州連邦議会は、2022 年 12 月 15 日（木）、天然ガス価格に 1 年間上限を設ける法案を通過した。価格上限は、東部生産者による新たな卸ガス販売に適用される。

豪 Origin Energy は、2022 年 12 月 21 日、Brookfield Asset Management Inc. およびその傘下の関係機関・ファンド、EIG 傘下の LNG 企業 MidOcean Energy による連合からの Origin 発行済み全株式の 184 億豪ドル買取オファーに関してのデューデリジェンス（詳細調査）を新年初までに完了予定であると発表した。

豪 Woodside は、2022 年 12 月 7 日、Woodside Energy (Bass Strait) Pty Ltd が、Qenos

Pty Ltd との間で、ヴィクトリア州 Bass Strait での自社ポジションよりの天然ガス供給によるガス販売契約（GSA）を締結したことを発表した。2023 年分 4.5 ペタジュール（PJ）（約 80,000 トン）、用途は Qenos のヴィクトリア州アルトナ、ニューサウスウェールズ州ボタニベイのポリエチレン製造設備である。Woodside は Bass Strait プロジェクトでの合弁事業に、非操業パートナーとして参加している。

豪 Jemena は、2022 年 12 月 14 日（水）、エンジニアリング・建設企業 Zinfra, Nacap, Wasco と、Port Kembla における自国最初の LNG 輸入基地と Eastern Gas Pipeline（EGP）ガスパイプライン網との接続に関して共同することを発表した。Squadron Energy の Port Kembla Energy Terminal（PKET）から、ニューサウスウェールズ州・ヴィクトリア州の顧客に、EGP 経由で年間 130 ペタジュール（239 万トン）を輸送するため、12 km の地中パイプラインを建設することとなる。

豪 Woodside は、2022 年 12 月 20 日、Woodside Burrup Pty Ltd、North West Shelf プロジェクト参加企業がそれぞれ、Western Gas との間で、2027 年以降 Equus ガス年間 200 - 300 万トンの処理に向け技術検討・契約締結に向け主要条件を定める別々の基本合意を締結したことを発表した。Equus ガスは、浮体生産・貯蔵・積み出し（FPSO）設備で生産され、200 km パイプラインで Pluto LNG 設備に輸送することが提案されている。Pluto 第 1 系列容量が利用できるようになるまで、Equus ガスは Pluto-KGP Interconnector 導管で Karratha Gas Plant（KGP）処理・輸出のため輸送され、その後 Pluto 第 1 系列容量が利用可能となれば、そちらで処理・輸出するように提案されている。処理・LNG 生産開始が 2027 年目標とされ、生産量目標は LNG 年間 200 - 300 万トン、国内市場向けガス日量 50 - 75 TJ（年間 33.5 - 50 万トン）とされる。

Shell の西豪沖 Prelude 浮体 LNG（FLNG）設備で火災があり、生産は一時停止した。

豪 Santos は、2022 年 12 月 14 日、パース盆地 Walyering ガス生産合弁事業との間で、新たなガス供給契約を締結したことを発表した。Santos は Walyering ガス田より、2023 年前半から 5 年間で 36.5 ペタジュール（67 万トン）を購入する。このガスは、Santos 西豪州内ガス販売に充てられることとなる。

ATCO Australia は、2022 年 12 月 5 日、西豪州で 2 件の水素プロジェクトのコミッションングを発表した。天然ガス配給網への水素混合および水素燃料充填ステーションである。ATCO は Fortescue Future Industries（FFI）と組み、トヨタ ミライ 16 台が利用する同州最初の水素燃料充填ステーション（HRS）を、ATCO の Jandakot 拠点に設置、Clean Energy Innovation Hub で生産される再生可能水素を活用することとなる。

豪 Santos は、2022 年 12 月 2 日、Barossa ガスプロジェクトに関して、掘削開発計画の NOPSEMA（連邦海洋石油類安全・環境規制機関）承認を無効とする連邦裁判所の判断に関わらず、2025 年前半のガス生産開始は予定通りであると述べた。

豪 Woodside は、2022 年 12 月 2 日、Greater Sunrise ガス田群に関して、ティモールレステ陸上 LNG 輸出設備による開発可能性を再度検討している、と述べた。

韓国サムスン重工業（SHI）は、2022 年 12 月 22 日、アジアのあるクライアントより沖合生産設備を受注したことを発表した。

インドネシア Tangguh LNG プロジェクトに携わる企業連合（三菱商事、INPEX、JX 石油開発、三井物産、エルエヌジージャパン、住友商事、双日）は、2022 年 12 月 23 日、オペレーターbp と推進するインドネシア西パプア州の Tangguh LNG プロジェクトの開発鉱区である、Berau 鉱区、Muturi 鉱区、Wiriagar 鉱区それぞれの生産分与契約（PSC）を 20 年間延長することについてインドネシア政府の承認を得たことを発表した。

【北米】

Sempra は、2022 年 12 月 1 日、INEOS との間で、LNG 長期売買契約（SPA）を締結したことを発表した。INEOS は、Sempra のテキサス州ジェファーソン郡 Port Arthur LNG プロジェクト第 1 段階より、本船渡し（FOB）条件で、年間 140 万トンの LNG を 20 年間購入することに合意した。同第 2 段階からさらに年間 20 万トンを INEOS が購入する可能性に関しても非拘束の基本合意（HOA）を締結した。Sempra は第 1 段階最終投資決定（FID）を 2023 年第 1 四半期に計画しており、2027 年引き渡し開始を期待している。

Sempra は、2022 年 12 月 6 日、ENGIE S.A. との間で、Port Arthur LNG プロジェクト第 1 段階より、長期売買契約（SPA）を締結したことを発表した。ENGIE は、年間 87.5 万トンを、15 年間、本船渡し（FOB）条件、ESG パフォーマンス基準に従い独立第三者認証を受けたガスの生産者から調達したものを購入することに合意している。

Sempra Infrastructure は、2022 年 12 月 28 日、RWE 子会社 RWE Supply & Trading との間で、Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトから LNG 年間 225 万トンの長期売買契約（SPA）を締結したことを発表した。本船渡し（FOB）条件で 15 年間引き渡される。本契約はまた、Port Arthur LNG 第 1 段階から生産される LNG のカーボンインテンシティを、GHG 排出削減・軽減の諸戦略、持続的な改善のアプローチを通じて、低減する諸手法を進める枠組も提供する。Sempra Infrastructure は最近 ConocoPhillips、INEOS、ENGIE との間で、第 1 段階プロジェクトから年間 730 万トンの LNG について売買契約（SPA）を締結したことを発表した。

米 Freeport LNG は、2022 年 12 月 23 日、液化設備再稼働を 2023 年 1 月後半まで見込めない、と述べた。2022 年 12 月 23 日時点で、再建作業は実質完了しており、連邦エネルギー規制委員会（FERC）からの 12 日付データ要請に含まれた最後に残された複数の質問に対する回答を提出しているところである、とのこと。

大阪ガス株式会社 100%子会社 Osaka Gas USA Corporation (OGUSA) は、2022 年 12 月 22 日、天然ガスパイプライン等のエネルギーインフラストラクチャーを保有・運営する Tallgrass MLP Operations, LLC、バイオエタノールプラントを保有・運営する Green Plains Inc. と、米国中西部にて「e-methane（e-メタン）」（合成メタン）を製造する事業の実現可能性の検討を行うための覚書を締結したことを発表した。Green Plains が保有・運営する

バイオエタノールプラントから回収するバイオマス由来の二酸化炭素 (CO₂) と、天然ガスを改質して得られるブルー水素を用いて、2030 年までに、年間最大 20 万トンの e-メタンを製造することを目指すとしている。将来的なグリーン水素の活用の可能性も視野に入れている。2023 年 7 月頃までに、ブルー水素・e-メタン製造プラントの技術検討、ブルー水素製造時に発生する CO₂ を回収・貯留 (CCS) するための適地調査、事業性評価といった実現可能性の検討を行うとしている。OGUSA は、e-メタンを Freeport LNG 設備で液化するスキームの検証も行うとしている。

米 NextDecade Corporation は、2022 年 12 月 20 日、Galp Trading S.A. と、前者のテキサス州ブラウンズヴィルの Rio Grande LNG (RGLNG) 輸出プロジェクトから長期 LNG 供給に関して、売買契約 (SPA) を締結したことを発表した。この 20 年間 SPA 下、Galp は年間 100 万トンの LNG を、本船渡し (FOB) 条件で、ヘンリーハブ連動価格で購入する。NextDecade は RGLNG 輸出プロジェクト最初の 3 系列に、2023 年第 1 四半期の最終投資決定 (FID) を目標としている。残り系列群の FIDs はその後続くこととなる。

NextDecade Corporation は、2022 年 12 月 27 日、中国 ENN Natural Gas Co., Ltd. 子会社 ENN LNG (Singapore) Pte Ltd との、NextDecade の Rio Grande LNG (RGLNG) 輸出プロジェクトからの LNG 供給について、売買契約 (SPA) 数量増量を発表した。20 年間の SPA で、ENN は年間 200 万トンの LNG を購入することとなる。これは 2022 年発表された当初の年間 150 万トンから、50 万トンの増量となる。全てヘンリーハブ連動となり、RGLNG 最初の 3 系列より、本船渡し (FOB) 条件で供給されることとなる。

株式会社 INPEX、米 Venture Global LNG 社は、2022 年 12 月 27 日、INPEX Energy Trading Singapore Pte. Ltd. 社、Venture Global CP2 LNG, LLC 社の間で LNG 売買契約を締結したことを発表した。前者は後者が米国ルイジアナ州にて開発を進める CP2 LNG プロジェクトより、年間約 100 万トンの LNG を 20 年間、FOB (本船渡し) にて購入する。本プロジェクトは、2023 年頃に建設を開始する予定である。INPEX は、この LNG を自社の直江津 LNG 基地向けに供給するほか、日本国内外の需要家への供給も予定している。INPEX は、自社参加プロジェクト権益分と合わせて 2030 年の LNG 取扱量を年間 1000 万トン程度とすることを目指している。

米 Energy Transfer LP 社は、2022 年 12 月 15 日、自社子会社 Gulf Run Transmission LLC 社が、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) より、メキシコ湾岸・国際市場の需要に対応するため天然ガスを輸送する Gulf Run パイプライン稼働開始承認を受けたことを発表した。このルイジアナ州内のパイプラインは、日量 16.5 億立方フィート容量を持つ。Energy Transfer は、41 州に、天然ガス、原油、天然ガス液 (NGLs)、精製製品を輸送する 120,000 マイル (193,116 km) パイプライン・関連インフラストラクチャーを持つ。Energy Transfer は Lake Charles LNG 社も所有している。

Woodside Energy は、2022 年 12 月 20 日、Air Liquide Engineering and Construction 社に、米オクラホマ州アードモアでの H₂O_K 水素プロジェクト向け液化機器の契約発注を

決定したことを発表した。Air Liquide は、電解で製造する水素の液化のため、日量 30 トン液化機器 2 基のエンジニアリング・組み立てを担当する。Nel ASA 子会社 Nel Hydrogen Electrolyser AS 社に電解装置設計・開発を発注したことに続くものである。H2OK プロジェクトは、ハイウェイ、輸送企業のインフラストラクチャーに近く、水資源・再生可能エネルギーも豊富な地点にある。Woodside は H2OK の最終投資決定 (FID) を 2023 年目標としている。同社は豪州でも H2Perth、H2TAS の水素プロジェクトを推進しており、ニュージーランドでは最近 Southern Green Hydrogen プロジェクト推進のパートナーに選定された。

米 Williams 社は、2022 年 12 月 15 日、MountainWest Pipelines Holding Company を、Southwest Gas Holdings, Inc. から買い取ることで合意に達したことを発表した。MountainWest は、ユタ州、ワイオミング州、コロラド州に渡る 2,000 マイル (3,219 km) に及ぶ輸送容量日量 80 億立方フィートの州際天然ガスパイプライン網で構成される。MountainWest はまた貯蔵容量 560 億立方フィートを持つ。

カナダ連邦エネルギー規制機関 (CER) は、2022 年 12 月 14 日、年間 1200 万トンの液化・出荷設備プロジェクトである Ksi Lisims LNG に 40 年間の輸出ライセンスを発行した。稼働開始は 2027 年末または 2028 年として計画されている。Ksi Lisims LNG による申請は、2022 年 4 月に CER に提出された。

米連邦エネルギー省 (DOE) は、2022 年 12 月 20 日、Sempra に対して、メキシコ向けに LNG プロジェクトからの再輸出用として天然ガスを送ることを承認した。Costa Azul は追加年間 161 bcf (335 万トン)、Vista Pacifico は追加年間 200 bcf (416 万トン) 輸出する見込み。

Sempra 子会社 Sempra Infrastructure は、2022 年 12 月 22 日、Energía Costa Azul, S. de R.L. de C.V. (ECA LNG)、Vista Pacifico, S.A.P.I. de C.V. (Vista Pacifico LNG) が、米連邦エネルギー省 (DOE) より、米国産原料ガスから LNG にしてメキシコから、非自由貿易協定 (non-FTA) 諸国に輸出する承認を受けたことを発表した。Vista Pacifico LNG は、米国産天然ガスからの LNG 最大年間 200 Bcf (約 400 万トン) をメキシコのシナロア州トポロバンポで開発中のプロジェクトより、再輸出することを承認されたこととなる。Vista Pacifico LNG は輸出容量年間 350 万トン程度の中規模設備となる見込み。Sempra Infrastructure はメキシコ CFE (電力公社) と協力して Vista Pacifico LNG 開発を進めている。DOE はまた、ECA LNG 第 2 段階における輸出承認数量を増加、メキシコのバハカリフォルニア州エンセナダで開発中の同プロジェクトから、米国産天然ガスからの LNG 最大 636 Bcf (1323 万トン) の再輸出を認めている。ECA LNG 第 2 段階計画は、2 系列・LNG 貯蔵タンク 1 基で、輸出容量年間 1200 万トンと見込まれる。ECA LNG 第 1 段階は 2019 年非 FTA 輸出承認を得て建設中で、2025 年稼働開始見込みである。

【中東】

オマーン Oman LNG は、2022 年 12 月 27 日、2025 年からの LNG 引き渡しについて、日本の 3 社と拘束力ある基本条件書を締結したことを発表した。伊藤忠商事、JERA、三井物産は 5-10 年間の契約で合計年間 235 万トンを購入することに合意した。伊藤忠商事 80 万トン、JERA 80 万トン（10 年間）、三井物産 75 万トンとなる。

Chevron は、2022 年 12 月 8 日、イスラエル沖 Tamar ガス田拡張の最終投資決定(FID)を行ったことを発表した。Chevron Mediterranean は同プロジェクトに 25%を持つ。第 1 段階は、Tamar ガス田から Tamar プラットフォームへの 3 本目、150 km のパイプラインとなる。これは、天然ガス日量 12 億立方フィートを輸送することができるように増強するものである。Chevron はこの作業を 2025 年初までに完了する見通しである。Tamar プロジェクトの他参加企業は Isramco 28.75%、Mubadala Energy 22%、Tamar Petroleum 16.75%、Dor Gas 4%、Everest 3.5%である。

【アフリカ】

株式会社国際協力銀行（JBIC）は、2022 年 12 月 30 日、株式会社商船三井（MOL）が出資するマーシャル諸島共和国法人 SENEGAL LNGT COMPANY LIMITED（SLNG）との間で、融資金額約 35 百万米ドル（JBIC 分）を限度とするプロジェクトファイナンスによる貸付契約を締結したことを発表した。本融資は、株式会社三菱 UFJ 銀行との協調融資により実施するもので、協調融資総額は約 71 百万米ドルとなる。セネガル共和国では、LNG を、SLNG が保有する浮体式 LNG 貯蔵再ガス化設備（FSRU）で再ガス化し、LNG 発電船で発電した上で、同国の国営電力公社 Société nationale d'électricité du Sénégal（Senelec）へ売電する事業が進められている。

Eni は、2022 年 12 月 22 日、Wison Heavy Industry と、容量年間 240 万トンの浮体 LNG（FLNG）設備建造・設置に関して契約を締結したことを発表した。この FLNG はコンゴ共和国沖に配置されることとなる。全長 380 m、幅 60 m の船体で、水深 40 m 程度の地点に繫留され、LNG 180,000 m³以上、LPGs 45,000 m³を貯蔵できるものとなる。同国に配置される 2 隻目の FLNG となるが、1 隻目の Tango FLNG（容量年間 60 万トン）は 2023 年 LNG 生産開始見込みとなる。この 2 隻目の FLNG により、LNG 生産容量は 2025 年に年間 300 万トンに達することとなる。

日揮ホールディングス株式会社は、2022 年 12 月 19 日、海外 EPC 事業会社である日揮グローバル株式会社が仏 Technip Energies N.V.、仏 TechnipFMC plc、韓国サムスン重工業（Samsung Heavy Industries Co., Ltd.）と共同で遂行しているモザンビークの Coral FLNG 社向け FLNG（Floating LNG: 浮体式天然ガス液化設備）プロジェクトの竣工式が 11 月 23 日に実施されたことを発表した。

[欧州・ロシア]

日本と、欧州連合（EU）は、2022 年 12 月 2 日、水素に関する協力覚書（MoC）を締結した。

IEA は、2022 年 12 月 12 日、「2023 年欧州連合のガス不足回避方策」に関する新たな報告書を公表した。2022 年の冬季に先立ちロシア産ガス供給への依存削減、ガス貯蔵充填への取り組み進展に加えて欧州がとり得る諸策を示すものである。欧州連合は 2023 年天然ガス 30 bcm（300 億 m³）近い不足可能性に直面しているが、エネルギー効率改善、再生可能エネルギーのさらなる導入、ヒートポンプ設置、省エネルギー促進、ガス供給増加への取り組み強化により、このギャップを狭め不足のリスクを回避できる、と IEA は述べている。

欧州連合（EU）エネルギー規制機関協力機関（ACER）は、2022 年 12 月 1 日、LNG 価格アセスメント・指標の専門家部会設置計画を発表した。閣僚理事会でのガス購入・越境ガス取引・価格指標の調整改善による連帯強化への新たな規制案では、全ての日々取引リアルタイム情報収集による LNG 価格アセスメント手法の構築を ACER の任務としている。

EU エネルギー担当閣僚が、2022 年 12 月 19 日、極端な価格高騰から市民・経済を保護する市場調整メカニズムとして、TTF 翌月渡しデリバティブ契約について MWh 当たり 180 ユーロの暫定価格上限を含み、政治的合意に達した。

欧州理事会（首脳級）は、2022 年 12 月 19 日、エネルギー部門のメタン排出追跡・削減案に、原則合意に達した。同案は、石油・ガス・石炭部門に、最高水準でのメタン排出測定・報告・実証（MRV）新たな義務を導入する。

英首相、米大統領は、2022 年 12 月 7 日、新たな「英米エネルギーセキュリティ・適切水準確保へのパートナーシップ」を発表した。両国間の共同行動推進グループにより運営されることとなる。米国から英国への LNG 供給が持続的に増加することを支援することとなる。米国は今後 1 年間に、英国の基地を通じて 9 - 10 bcm（90 - 100 億 m³（735 万トン））以上の LNG 輸出を目指す。2021 年の輸出水準の倍増以上となる。

オランダ Gasunie は、2022 年 12 月 12 日、自国の LNG 輸入容量をさらに暫定的拡張する選択肢を検討していることを発表した。既存・新規用地とも検討している。エームスハーフェン（EemsEnergyTerminal）、ロッテルダム（Gate）既存設備とも、技術的最適化によりさらに拡張する計画がある。さらに新たな浮体 LNG 基地により 2023 年の十分な供給を確保する必要がある。このためテルネーゼン港湾が検討されている。

オランダ VTTI は、2022 年 12 月 12 日、浮体 LNG 設備開発を検討している、と述べた。同社は将来そのインフラストラクチャーを水素等グリーンエネルギーキャリアの輸入に使う計画である。VTTI は 2024 年初の稼働開始を目指している。

ドイツ EnBW は、2022 年 12 月 8 日、シュターデ Hanseatic Energy Hub にて、稼働開始より LNG 容量年間 3 bcm（30 億 m³）を予約したことを発表した。EnBW は将来、水素に基づくエネルギー源としてのアンモニアに移行するオプション権を持つこととなる。この可能性は、Hanseatic Energy Hub での年間 10 年間以上の契約を有する全ての顧客に選

択可能なものとなる。

ドイツ Uniper は、2022 年 12 月 15 日、Höegh Esperanza 浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) が、ウィルヘルムスハーフェン港湾に到着したことを発表した。同 FSRU はスペインで LNG を積んだ。Uniper は、12 月 17 日、自国初の LNG 輸入基地が、稼働開始されたことを発表した。Höegh LNG 社は、12 月 15 日、ドイツ連邦経済・気候行動省との間で、10 年間の定期備船契約を締結したことを発表した。Uniper が備船者を代行して操業する。

ドイツ Deutsche ReGas は、2022 年 12 月 16 日、FSRU (浮体貯蔵・気化設備) NEPTUNE が、自国初・現時点で唯一の民間資金による LNG 基地とすべく、ムクラン港リューヘン島での一時滞在・最終準備作業後、ルブミン港湾に到着したことを発表した。さらに Deutsche ReGas は、12 月 30 日、CORAL FURCATA がルブミン港湾に最初の LNG カーゴを持って入ったことを発表した。この LNG は当初 HISPANIA がエジプト Idku 設備で積み込んだ。同基地の商業稼働開始は、試験段階完了後となる。

ドイツ Uniper は、2022 年 12 月 19 日、同国連邦政府・Uniper が、9 月 21 日に両者、Fortum 間で合意した Uniper 安定化策を具体化する枠組協定を締結したことを発表した。80 億ユーロ増資による安定化、250 億ユーロ資金注入の承認の根拠となる、と述べた。Uniper は、12 月 20 日、欧州委員会が国庫補助法に基づき、Uniper 安定化パッケージを承認したことを発表した。

ノルウェー Equinor は、2022 年 12 月 20 日、Snøhvit ガス田参加企業が、Melkøya の Hammerfest LNG (HLNG) 設備増強に 132 億ノルウェークローネ投資することを発表した。同プロジェクトは、ガスの陸上での圧送・電化を含み、HLNG の将来を確実なものとする。Equinor は Snøhvit Future の開発操業計画 (PDO) を、石油・エネルギー大臣に提出した。陸上ガス圧送は、平年生産を延長し、HLNG からの高水準の輸出を 2030 年以降も維持するため十分なフローを提供することとなる。電化は、HLNG からの CO₂ 排出を年間 850,000 トン削減することとなる。

フィンランド Gasgrid Finland は、2022 年 12 月 20 日、Inkoo 港湾の深いエリアで LNG 浮体基地向けの港湾設備建設が完了したことを発表した。作業は 2022 年 8 月に開始したもので、埠頭・繫留構造物、浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) に必要な諸システム、2.2-km のガスパイプラインの建設が含まれていた。Excelerate Energy, Inc. は、2022 年 12 月 28 日、自社の浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) Exemplar が、フィンランドのインクー港湾に到着したことを発表した。同 FSRU はこれに先立ち、同基地向けの最初のコミッションング用カーゴとして部分カーゴを積み込んだ。FSRU Exemplar はフィンランド Gasgrid Finland Oy 向けに 10 年間備船されている。Gasgrid との定期備船に基づく気化業務提供に加え、Excelerate は最近設立したフィンランドのガス販売子会社 Excelerate Finland Gas Marketing Oy を通じて、コミッションングガス数量の販売と、コミッションング団塊の気化容量権について契約を締結した。この契約により、Excelerate Finland はフィンランドその他バルティック諸国下流顧客に天然ガスを供給することができる。FSRU

Exemplar は、顧客側からの要請に基づき冬季対応補強を行ったスペインのドックを 12 月 6 日に出発した。その後同船は、Excelerate のグローバル LNG ポートフォリオより、ジブラルタル近くで FSRU Excelsior との船舶間 (STS) 移送により、カーゴを確保した。Excelsior は最近イスラエルでの 10 年間の業務を完了し、2023 年にドイツ連邦共和国向け備船に向かう。

スペイン TSO (輸送網操業企業) Enagás は、2022 年 12 月 16 日、Sagunto 気化基地が Höegh Esperanza への積み込みを担当したことを発表した。同船は、ドイツ最初の浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) として運用する。

Enagás は、2022 年 12 月 13 日、自社、フランス TSOs GRTgaz ・ Teréga、ポルトガル TSO REN が、H2MED 開発協力をコミットする基本合意 (MoU) を締結したことを発表した。目標は 2030 年にこのインフラストラクチャーを利用可能とすることにある。3 国は 2022 年 10 月 20 日、エネルギー相互接続の加速、3 国を EU エネルギー網に結び付けるグリーンエネルギー回廊の創設を決めた。3 国はまた、イベリア半島から欧州中央に再生可能水素を輸送するため、ポルトガル・スペイン間の水素連結 (Celorico-Zamora)、スペイン・フランス間 (バルセロナ・マルセイユ間) の海底パイプライン開発にも合意した。3 国首脳は、12 月 9 日、このコミットメントを批准した。

TotalEnergies は、2022 年 12 月 9 日、同年 3 月 22 日に発表したロシア関連活動に関する行動原則に従い、欧州へのガス供給持続を確保しつつロシア資産からの撤退を開始した、と述べた。TotalEnergies は Novatek 社株式 19.4%を持つが、株主間協定により、制裁を受けている Novatek 主株主に資産を売ることが禁じられており、売却することができない。

フランス GTT は、2023 年 1 月 2 日、ロシア企業へのエンジニアリング業務提供を禁じる欧州制裁パッケージを検討した結果、ロシアでの活動を休止し、同月 8 日付で Zvezda Shipbuilding Complex との契約を停止する、と発表した。GTT はロシアで Zvezda で建造中の砕氷級 LNG 輸送船舶 15 隻のタンク設計、3 隻の GBSs (コンクリート製洋上着床型構造物) 建造に関わっている。

ロシア Gazprom は、2022 年 12 月 21 日、Kovyktinskoye ガス・コンデンセート田、Power of Siberia ガスパイプライン Kovykta-Chayanda 区間が稼働開始したことを発表した。イルクーツクガス生産地域では、主要ガス田で、ヤクーシャ Chayandinskoye ガス田と並び Power of Siberia ガスパイプライン供給源となる。

[南米]

トリニダード・トバゴ Atlantic LNG プロジェクトの参加企業は、2022 年 12 月 6 日、第 2-4 系列の所有権を一本化することに合意した。

参考資料: 各社発表, Cedigaz News Report.

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp